平成 12 年度～平成 14 年度
科学研究費補助金　基盤研究（C）（２）研究成果報告書

日本語表記の史的展開における宣命書きの機能とその位置付けの研究

課題番号　12610437

【研究目的】

大字に小字を交える書記形式である宣命書きは、古代漢字専用時代の書記のみでなく、平仮名・片仮名の成立する平安時代以降も、漢字仮名交じりの方法のひとつとして、長くまた広く用いられつづけてきた。本研究は、従来、連続的にとらえられてこなかった各時代の宣命書き資料の相互関係を明確にして、とくに位相性を重視することによって、宣命書きという書記形式が、日本語表記の歴史的展開の中でどのような意味を持っていたかを確かめるものである。

本報告では、宣命書きが和漢混淆文の成立に大きくかかわっており、現代日本語の書記方式への展開を考える上でも重要な位置を占めることを明らかにするとともに、その史的研究の基礎資料として、『平安遺文』の中の仮名を含む資料の一覧を提示する。これには、日本語資料として活用するための基礎的作業が残されているが、その作業も共有できるよう本報告に収めるものである。

【研究組織】

研究代表者　乾善彦（大阪女子大学人文社会学部教授）

【研究経費】

（金額単位：千円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 12 年度	900	0	900
平成 13 年度	500	0	500
平成 14 年度	800	0	800
	2200	0	2200

【研究発表】

（１）学会誌等

１、部分的宣命書きからみた『東大寺諷誦文稿』（女子大文学国文篇 52 号、平成 13.3）
２、『平安遺文』の宣命書き資料（女子大文学国文篇 53 号、平成 14.3）
３、部分的宣命書きと和漢混淆文（女子大文学国文篇 54 号、平成 15.3）

その他の関連研究

１、古事記の書き様と部分的宣命書き　『上代語と表記』（おうふう、平成 12.10）
２、日本語書記史と人麻呂歌集略体歌の「書き様」（万葉 175 号、平成 12. 11）
３、語彙史の時代区分・文字史の時代区分『国語語彙史の研究二十』（和泉書院、平成 13.3）
４、古事記の文章と文体―音訓交用と会話引用形式をめぐって（国文学 47-4、平成 14.3）

【目次】

研究篇
部分的宣命書きからみた『東大寺諷誦文稿』……1
『平安遺文』の宣命書き資料……12
部分的宣命書きと和漢混淆文……23

資料編
第一巻……1
第二巻……4
第三巻……10
第四巻……21
第五巻……42
第六巻……68
第七巻……102
第八巻……143
第九巻……172
第十巻……185
第十一巻……215